

「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 和歌山 和歌山こどもまんなか大会 が開催されました。



こどもや若者の利益を第一に考える「こどもまんなか社会」の実現に向けた取組を進めることを目的に、『「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 和歌山 和歌山こどもまんなか大会』が令和5年10月30日(月)和歌山県民文化会館小ホールで開催され、和歌山県の皆様や和歌山の企業・団体の経営トップや管理職、自治体職員らおよそ300名が参加しました。

開会セレモニーでは、りら創造芸術高等学校の学生の皆様による力強い和太鼓、躍動感のあるダンスや歌が披露され、岸本県知事による開会の挨拶の後、基調講演としてこども家庭庁長官官房長による「こども政策の課題と展望」、記念講演として(株)ワーク・ライフバランス小室淑恵氏による「子どもたちの未来を作る働き方改革！～男性育休・勤務感インターバル・誰が休んでも回る職場づくりの秘訣～」が行われました。



りら創造芸術高等学校の開会セレモニー



開会の挨拶をする岸本県知事



加藤大臣からのビデオメッセージ



こども家庭庁長官官房長による基調講演

■基調講演 こども政策の展望と課題

冒頭では、こども政策担当大臣が「こども・子育てにやさしい社会づくりのためには、地域社会、企業など様々な場で、年齢、性別を問わず、全ての人々がこどもや子育て中の方々を応援するといった社会全体の意識改革を進める必要がある。本日のリレーシンポジウムを通じて、こども、子育てに優しい社会づくりに参加していく機運が高まることを期待している。」と挨拶。続くこども家庭庁長官官房長による基調講演では、こども基本法の6つの基本理念に則り、都道府県や市町村のこども計画を策定する重要性を訴えました。また、少子化傾向を反転させるためには、2030年代に入るこれからの6～7年の取組が重要であると強調。若い世代が「結婚・子育ての将来展望を描けない」など、こども・子育て政策の抱える課題に対し「こども未来戦略方針」の内容を説明しました。中でも、柱の一つである「こども・子育てにやさしい社会づくりの意識改革」については、「企業・団体・個人の皆様が、今日からできることを“こどもまんなかアクション”として発信いただくことにより、こども・子育てに温かい雰囲気づくりを促していきたい」と述べ、こども・子育ての現場は地域であるとの認識のもと、「未来の社会のために、みんなができることを、地域の実情に応じてやっていきましょう」と語りかけました。

■記念講演 子どもたちの未来をつくる働き方改革

(株)ワーク・ライフバランスの小室淑恵氏により、こどもまんなか社会の実現に向けた働き方改革の必要性について講演が行われました。日本では、長時間労働が深刻化する反面、労働時間が少なくなると経済が縮小するのではとの懸念が叫ばれているものの、実は、長時間労働こそ共働き・共育ての障壁になり、経済規模の縮小につながっていると主張。働き方改革こそ子どもたちの未来のために重要だと力強く述べ、男性が家庭で活躍できる社会を一緒に作っていくことが重要だと説きました。

今回の「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 和歌山 和歌山こどもまんなか大会」の様子は、今後公表される和歌山県による開催レポートを通じて、県民の皆様にも広く発信される予定です。

【概要】名称:「和歌山こどもまんなか大会」 / 場所:和歌山県民文化会館小ホール / 日程:令和5年10月30日(月) / 内容:《基調講演》こども家庭庁長官官房長「こども政策の課題と展望」 《記念講演》株式会社ワーク・ライフバランス 小室淑恵社長「子どもたちの未来を作る働き方改革！～男性育休・勤務感インターバル・誰が休んでも回る職場づくりの秘訣～」 / 主催:和歌山県/ 協力:こども家庭庁